



NO. 202

2010. 4. 15.

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会
(別名 大阪市手をつなぐ親の会)

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

大阪市天王寺区東高津町 12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 笹野井 庸夫

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

平成22年度の定期人事異動により、大阪市育成会の施設長も大きく変わりました。今回は、新しく就任した施設長からの今後の抱負などについて、思いを掲載しています。

支援の役割

東成育成園

園長 平中 葉

桜の花も、あつという間に桜吹雪となり、季節は初夏へと移ろうとしています。

このたび東成育成園の園長を拝命いたしました。

これまでの経過の中で、今日まで作り上げてきた支援体制の維持と運営の継続に責任の重さを感じるとともに、新しい制度の中で、それらの取り組みをどのように再構築していけばいいのか、湧いてくるこれからへの不安にとまどいながら、新たな気持ちで日々の支援にあたっております。

理事会・評議員会でもご報告させていただいたように、東成育成園は、この4月から旧法の通所更生施設から新体系の事業に移行する予定にしておりましたが、様々な状況から、それを延長させていただいております。体系の移行については最終期限が迫っており、準備を整えて早急に移行しなければならないと思っております。

今まで施設は、できないことは、できないままにしても、その仕組みは守られてきました。今後「施設」という建物にではなく、そこで行われる福祉サービス事業の「内容」に報酬が支払われるという新しいサービス体系にむけて、変えるべきところ変えてはいけないところの本質的議論を深め、これまでの支援の方針である『利用者が大人であることを常に意識し、大人としての当たり前の生活に近づけるように指導・支援する』『利用者のもつ課題をさまざまな角度から検討し、その人がその人らしく暮らしていけるよう支援する』『施設内の活動にとどまることなく、いろいろな社会資源を利用することで、

社会の中の自分を意識し将来の自立生活への意欲を高める』この3点を実現させる方法を具体的に探っていきます。

新体系への移行がどのような結果をもたらすのか不透明な部分もありますが、自分らしい暮らしへ踏み出したいという願いに寄り添っていくという支援の役割は見失いたくないと思っています。

就任してまだわずかな期間しか経っておらず、微力ではございますが、みなさまのご指導をいただきながら、職員ともども頑張っまいると思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

『物を作る《人》を育てる』へのこだわり

～就任のごあいさつ～

港第二育成園

園長 林 祥子

柔らかい陽ざしをうけ、青空の美しい季節となりました。新年度の始まりに際し、ご挨拶を申し上げます。

このたび、港第二育成園園長を拝命いたしました。これまで築き上げられてきた支援を維持させていくことに責任の重さを感じつつ、厳粛な気持ちで日々の職務にあたっております。

私の育成会職員としての歩みは、港第二育成園とともにあります。開所の年に採用となり、作業室・実習場・就労支援等、個性豊かな園長の下、様々な取り組みを重ねてまいりました。その後、東成育成園・支援センターも経験し今に至りますが、多くの期間を港第二の中で過ごしております。

港第二は、開所当初より、法人内唯一の授産施設としての役割を常に意識し、就労支援を進めてまいりました。その根幹となっている考えが『物を作る《人》を育てる』開所時より繰り返し使われてきた言葉です。果敢に社会へ挑もうとする利用者の方々の持つ『働く力』を揺る